

# 願成寺報

平成二十八年九月十四日

〒四四〇・〇八二二 豊橋市東新町二十八番地

☎ 〇五三二・五二・九六〇一

## ■ 秋季彼岸・永代経のご案内

今このままを慶ぶことが 仏様への報恩です  
そのままの慶びをご一緒に 見つめ直しましょう

## ○ 餅つき・草取り会

夏の疲れが残ったままですが、  
大切な行事の準備をします。  
皆でやれば、きつと楽しい！

春き立てのお餅をオヤツにします。  
是非、ご参加下さい。



九月 十九日(祝) 午後一時半 餅つき・草取り会

二十一日(水) 午後一時半 法要のみ

二十二日(祝) 午前十時 法要・法話

正午 お斎(昼食)

午後一時 法要・法話

法話 浄泉寺(岡崎市)  
住職 戸田恵信 師

## 悲しむ心をもつべし (II)

親鸞聖人に「笠間の念仏者のうたがいとわれたる事」で始まる  
お手紙があります。他力の信心を自力と比べて説いていく内容で  
すが、最後に法然上人の言葉が添えられています。

この信心をうることは釈迦・弥陀・十方諸佛の、御方便よ  
りたまわりたるとしるべし。しかれば「諸佛の御教えをそ  
しることなし。余の善根を行ずる人をそしることなし。こ  
の念佛する人をにくみそしる人をも、にくみそしることあ  
るべからず。あわれみをなし、かなしむ心をもつべし」と  
こそ、聖人は仰せごとありしか。

往生においては、善悪の分別心や良かれと計らう行為を離れ、  
「仏願力を頼め」と説かれた後で、最後に「悲しむ心を持つべし」  
と記されています。きっと、往生のための通路は悲しみによって  
開かれていくのだと思います。

悲しみは引き裂かれた心です。逆に云えば呼び合う心でしょう。  
何かが呼んでいる・願われていると気づくのもこの感情だと思  
います。思いが叶わない苦しい悲しみの中で、その思いに捉われず、  
その悲しみをも支えたてている大悲を感じるようになるでしょう。

## 悲しみの深さの中に真の慶びがある

悲しみの通路の上で大悲に出遇ったならば、必ず報謝の心が芽  
生えます。例えば私を害する敵であっても、大悲の中に生まれて  
います。ただ憎しみで抗うだけでない何かが開かれてくるでし  
ょう。それを開いていくことが念仏者の営みかもしれませぬ。

如来大悲ノ恩徳ハ 身ヲ粉ニシテモ報ズベシ

師主知識ノ恩徳モ 骨ヲ碎テモ謝スベシ

《正像末法和讃・親鸞聖人》

## ● うめちゃん、ありがとう

〇〇小三年 〇〇〇〇

うめちゃんが死んじゃった。

うめちゃんは、僕のお母さんのお母さんのお母さんで、ひいおばあちゃん。でも僕は「うめちゃん」とよんでいる。うめちゃんは僕が生まれた時は63才。すでにおばあちゃんだった。

でも僕たちは、とても仲がよかった。おに「こやかくれんぼはできないけれど、トランプや折り紙をしてよく遊んでくれた。ばばぬぎをしているとき、ジョーカーがうめちゃんの所に行くとき、くすつと笑うからすぐわかった。とてもかわいかった。

だんだん歩くのがつらくなってきて、杖をひいて歩くようになった。僕は、手をひいてあげた。「ありがとう」「そう言ってくれるのがうれしかった。

しばらくすると、歩くことができなくなった。車イスに乗ることが多くなった。僕は、後ろからおおして、いっしょに散歩をした。僕がうめちゃん家に泊まった時は、僕が入れ歯をあらって



あげた。入れ歯をとったうめちゃんの顔はしわしわでももしろかった。

だんだんできることが少なくなってきた。それでもむかし話のDVDを見たり、軽いボールですわりながらキャッチボールしたり、僕たちは楽しく過ごしていた。

「ごはんを食べる時、かむことができなくなつた。スープで食べることが多くなった。でもおやつは大好きで、おせんべいやクッキーはゆっくりだけど食べることができた。僕はいっしょにおやつを食べた。

寝ていることが多くなった。遊ぶことができなくなつたけど、僕は、うめちゃんのベットにいっしょに寝て、学校であったことやお母さんにおこられたこと、いろいろ話をした。うめちゃんはやさしく頭をなでてくれた。

声も出すことができなくなつてきた。うめちゃんが話すことが聞き取れなくなった。僕はだんだんうめちゃんの傍に行くことが少なくなつていった。何をしたいかわからなかった。でも僕が行くことにこり笑ってくれた。

「ごはんが食べれなくなつて、水も飲めなくなつた。てんきで栄養と水分をとっていた。すぐくやせてかわいそうだった。

ばあばから電話がきた。「もうだめかもしれない」「お母さんが僕に言った。すぐにうめちゃんに会いに行った。ずっと寝ていたのに、その日は目を開いたままだった。でも僕が行くと、「おつ」と声を出してくれた。僕のことを分かってくれて、手をにぎってくれた。僕はなみだが

出てきた。うめちゃんがいなくなつてしまってもしれない。話ができなくなつても、手をにぎつてあげればよかった。傍にいてあげればよかった。夜遅くなつたから、僕たちは家に帰った。

次の日、冷たくなつたうめちゃんと会つた。近くにいるのに、遠くに感じた。死んじゃつたんだなと思つた。うめちゃんに出した手紙をお棺にたくさん入れた。手紙をとつておいてくれたのがうれしかった。

お葬式が終わつて、うめちゃんを燃やした。骨はほとんど残らなかつた。骨の栄養も使つて生きたのかな。うめちゃん、えらかつたね。

うめちゃんがいなくなつたけど、ばあばの家に行けばベッドの上でうめちゃんがいるんじゃないか？でも思う。うめちゃんは、たくさん「ありがとう」を言ってくれた。

「ありがとう」ってすくしくしあわせな言葉だ。僕は、「ありがとう」と言われるような仕事をしたと思う。

天国があるかはわからないけど、もしあるとするならそこで楽しく暮らしてほしい。大好きだったアイスもいっぱい食べて、たまに僕のことを見てくれたらうれしいな。

うめちゃん、「ありがとう」

谷口うめ様は 昨年七月 百一歳で亡くなりました。どれも輝く宝物、大切に大きくなつてね。

\* 読み易さを優先し、数か所ひらがな↓漢字変換しました。原稿の雰囲気少し壊れているかも・・・お詫びします

## 本山納骨堂法会・団体参拝のご案内

市内・近郊のご寺院様と貸切バスにて日帰り参拝します

■期日 平成二十八年十一月三日（木・文化の日）

■日程 六時三〇分 寺集合

十時三〇分 本山着

十四時三〇分 椿大神社

十八時三〇分 豊橋着（予定）

【参拝・昼食】

【観光・買物】

\* 買物は御在所サービスイリアでもできます

■会費 八、五〇〇円 バス・昼夕食・旅行保険代他

■納骨 納骨希望の方は一霊につき二万円必要（納骨冥加金）

■申込 願成寺までご連絡下さい（十月十六日まで）

■他 ご不明な点は寺までお問い合わせ下さい

## 前任職十七回忌・前坊守一周忌のご案内

髪が黒い万年青年・草取り名人・特徴的なバイク姿・

声が良い・腰が低い等で褒められた前任職ですが、

亡くなって十六年が経ち十七回忌となりました。

前坊守が亡くなって早一年、あつという間に過ぎました。

皆さまにご迷惑をお掛けすることを嫌った夫婦ですので、  
派手にすると叱られますが、左記にて法要を勤修します。

ご都合合えばお参り下さい。

■期日 平成二十八年十月二十二日（土）午後四時〜五時

■場所 願成寺本堂

■他 先代の遺志に鑑み「ご仏前」等のご辞退致します

## 亡き人の駄目な所が懐かしい

幼い頃から父を見て「ああはなりたくないナ」と思っていました。

お母ちゃんの尻に敷かれて情けないし、

坊さんなんて何が楽しいか分からない。

それは悪いお手本であり、そうならない様に努力してきました。

理科系の学校を選び、寺から遠い所で暮らしていました。

けれど、なってしまった。

どうも家内には頭が上がらないし、

坊さんをやっている。

なってしまって父の姿を思い返すと、

もう「なりたくない」とは思えません。

「親父もそうだったよな、懐かしいな」と癒されます。

父はグズグズした人で、お年忌などよく遅れて出かけていました。

父とは違うと心掛けますが、ときどき失敗します。

朝寝坊で葬儀に遅れたことがあります。

急いで会館に向かう道中、渋滞に巻き込まれました。

焦る心が感極まって「助けてー、ナンマンダブツ」と。

「あれっ、お念仏の場面じゃないぞ」と考えたら、

父を思い出しました。

きっと父にもこんなことがあったに違いない。

どんな風に謝っただろう、どんな顔してお勤めしただろう。

落ち着きを取り戻しました。

遅れて迷惑を掛けましたが、無事葬儀は終了しました。

謝っている時、父と一緒に居てくれた気がします。

善し悪しはその時の都合でしかありません。

悪しき事が実は宝物で、時を越えて輝き出す場合があるようです。



行事予定 平成二十八年秋以降

九月二十二日(木・祝) 秋季彼岸・永代経法会(戸田恵信師)

お馴染みの先生の情熱的な法話です  
お非時(昼食)あり  
午前十時

十月二十二日(土) 前住職十七回忌・前坊守一周忌

午後四時～一時間のお勤め

十一月三日(木・祝) 本山納骨堂法会・団体参拝

本山へ貸切バスにて団体参拝します  
午前七時ごろ集合

十二月三日(土) 報恩講

御開山聖人御恩に報いる法会です  
お非時(昼食)あり  
三日 午後一時半から  
四日 午前十時から

毎月一日

月例会

午後二時～ 時間変更の場合があります、  
寺までご確認下さい

★年賀状対策特別企画

☆字手紙教室

・日時 十一月一日 午後三時

・講師 森亨(豊用印刷社長)

・会費 用具不要にて 五百円

・要申込 十人程度

☆消しゴムハンコ教室

・日時 十二月一日 午後三時

・講師 大河戸 悟道(正太寺)

・会費 用具不要にて 五百円

・要申込 十人程度



こんなの出来ちゃいます♪

↓ 後記 ↓

○ 日本は仏教国？

胸を張って仏教徒という人は少ないかもしれません。けれど：「四苦八苦」「ガキ」「因縁」「娑婆」「我慢」「勿体ない」など、仏教語に馴染むこの国は、やはり仏教国だと思います。

○ ゴキブリのいのちは尊いか？

あるテレビ番組が質問をしたら、七割の人が「いいえ」と答えた。ビックリしました。日本は仏教国ではなくなったのかも：

仏教は「全てのいのちは尊い」と教えています。

私達は、その尊き関する感性を失ってしまったのでしょうか。

私も蚊を打ちゴキブリを殺します。

草取りをして、雑草・ミミズやバッタ他にも迷惑を掛けています。

生活のそれぞれの場面で申し訳なさや痛みを感じ、

その痛みからのちのちの繋がりや尊さを教えられます。

○ 便利な世の中は危ない

『バルサン』や除草剤を使うと、この痛みを感じないで済みます。自分にとって迷惑なものを痛みなしに排除することができます。

手間もかからず大変便利ですが危険です。

障がい者施設に押し入り、ナイフを振るった男がいます。

「役に立たないいのちは要らない」と主張しています。

何かが足りない：

いのちに対する痛みと尊敬の感覚。

それは論理的なものではなく、身体的な感覚なのだと思います。

現代では、その感覚を養うチャンスが少ないのかもしれない。

いのちの軽重やその線引きを論じる事に大きな意味はありません。

いのちに対する痛みの感性を研ぎ澄ます事、それだけが重要です。

痛まれるいのちは重たい。たとえ迷惑なものであっても：

全てのいのちは仏様から痛まれ・願われている尊い存在です。

そこから初めなければなりません。